

首相「10日表明」に反発強まる

野田佳彦首相がハワイでのAPEC首脳会議に出席する前の10日に「TPP交渉参加表明」の記者会見をする、と藤村修官房長官が認めた。これに反発する超党派の動きが7日、高まった。

公明党の石田氏

「分らない、ということが分かった。外務省や政府は何かを隠している。首相が勝手に決めるのは、とんでもない」

まず、「TPP交渉参加に慎重対応を求める議員集会」が参院議員会館で。山田正彦(民主党)、加藤紘一(自民党)、石田祝稔(公明党)、志位和夫(共産党)、福島瑞穂(社民党)、亀井静香(国民新党)、藤井孝男(たちあがれ日本)、田中康夫(新党日本)の顔ぶれが演説した。加藤氏が言った。

「焦っているのは米国ではないか。この国のかたちは、自分たちで

決めたい、というのがTPP反対運動の底流にある」

「震災の被災地にマイナスではな

いか。食料自給率50%に悪影響では。医療など非関税障壁は、日本の対米輸出が増えるのか、という疑問に、野田首相は「つもまともに答え

ていない」

亀井氏が面白かった。



4326

西田昌司氏(自民党)の番外発言

も興味深かった。「もし、首相が参加を強行したらどうするか。内閣不信任案を出すことを、この場で決めよう」

「いまの状況は、ウルグアイラウンドと国民福祉税をやるとうとした細川政権と重なる。細川内閣は短命だった。与党党首会議では、このことをとくと総理に申し上げたい。ここに集まった各党は立派だ。党利党略を離れて国益のために反対している。党利党略なら野田総理に『APECでTPP参加といえ』というはずだ」

さすがに、この提案は取り上げられなかった。

一方、「APECの場で参加表明を行うべきでない」とする国会決議の実現呼びかけが、これも超党派で。呼びかけ人は、阿部知子(社民党)、石田祝稔(公明党)、稲田朋美、小野寺五典(自民党)、斎藤恭紀(民主党)、下地幹郎(国民新党)、田中康夫(新党日本)、高橋千鶴子(共産党)、城内実、松木謙公(無所属)の10人。衆院議員の署名が200人を超える勢いという。

首相が11日の予算委集中審議の前に、態度表明すれば、かなりダメージを残しそうだ。

(政治評論家)

TPP、議員署名も拡がる